

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

美しい自然を見て「絵みたいな景色だ」といういい方がある。それは、現実のものとは思えないほどの美しい形や色、それらの絶妙な配置に対する賛辞だ。そもそも美とは何か、という問題は、美学などの分野で様々に論じられているので追究しない。ただ、自分のそれまでの概念を超えるような風景に出会うと、感動を覚える。さらに自分の概念をはるかに超えた美しい風景に出会うと、今度は「筆舌に尽くしがたい」になる。（第一段）

絵や写真の中では、見たことのない景色、見たことのない生き物や食べ物、見たことのない美しい服をまとった異国の人物に出会うことができる。子供と同じように、新たなモノを知り、新たな世界を知ることができる。子供の自分の生活からかけ離れた空間やモノの存在を知ること、世界が今ここにある狭い範囲だけではないのだと心が軽くなることもある。しかも絵は、現実の風景そのままではなく、いらぬものを排除し、足りないものを付け加えることができる。そうすることで、自然の美しさをより際立たせることができる。（第二段）

描かれているのは、ある瞬間にある空間で切り取った作者のフィルターを通して見た世界だ。画家もまた、見たモノをそのまま描いているのではなく、知っているモノを描いているのだ。そのフィルターによって、ありきたりの風景やモノの知らなかった一面、普段は目を向けないような部分に、気付かされることもある。(1) 知っているモノについての新たな概念が加わる、新たに「知る」喜びだ。（第三段）

〔問1〕

(1) 知っているモノについての新たな概念が加わる、新たに「知る」喜びだ。とあるが、「新たに『知る』喜び」とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア 作者のフィルターを通して現実に関心を加えたり排除したりした絵と出会うことで、美しさを引き立てる技法に驚き、感心するということ。

イ 見たことのないモノを作者のフィルターを通した絵で初めて見て、現実の世界の広さを認識するとともに、異国の生活に夢を抱くということ。

ウ 作者のフィルターを通して抽出された絵や写真から、有り触れた風景やモノに対する自分の考えを超えた一面に気付き、感動するということ。

エ 美しい自然を見ることで、作者のフィルターを通して絵や写真が現実を超えられないと改めて認識し、自然の偉大さを実感するということ。